

「心に響いた言葉」

～「言われたい言葉」から「与えたい言葉」へ～

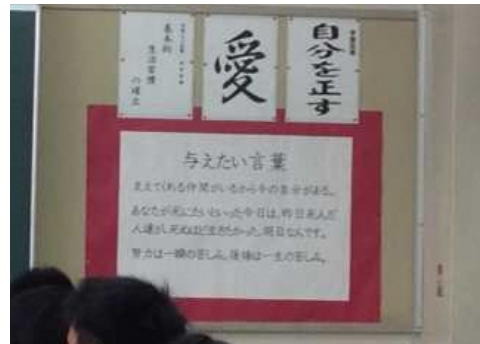
1年 人権教育LHR
「心に響いた言葉」
利用指導

ねらい

- 本の中から「心に響いた言葉」を抜き出してノートに書きとめ、悩んでいる際の自助や、判断すべきときの際の材料とする。
- 「心に響いた言葉」で多くの著作者の考え方に触れるとともに、その言葉を他者にも与え、互いに思いやり助け合って生きていくための糸口とする。

学 習 展 開

- ① 図書館の本の中から、「心に響いた言葉」を探し、ノートに書きとめる。
- ② 抜き出した言葉をクラスで持ち寄って発表し、特に印象に残った「心に響いた言葉」を各グループで話し合って選ぶ。
- ③ 各グループから発表された「心に響いた言葉」から、さらにクラス全体での意見交換により、「心に響いた言葉」BEST3を選ぶ。
- ④ 選ばれた言葉は、自分が言って欲しい言葉だが、それをゆくゆくは他者に「与えたい言葉」として、お互いが「愛」を持って助け合っていくことが大切だと認識する。
- ⑤ 選ばれた言葉3つと学級目標「愛」を教室掲示する。



(上) 授業の様子 (下) 教室掲示

◆担任と司書教諭の関わり

- 担任は授業内容を生徒に指示、司書教諭は生徒の様子を観察し、必要であれば図書配架の場所を説明する。
- 司書教諭は担任から授業のねらい等を聞き、教室での人権教育 LHR も参観して、「図書館情報」に記事を掲載し、全校に配布する。

★指導のポイント

- ◆ 生徒が言葉を選びやすいよう、担任自身の読書体験や「好きな言葉」を最初に話す。
- ◆ 生徒が本から自由に好きな言葉を選べるよう、漫画や歌の歌詞の言葉でもよいとあらかじめ説明し、選べる範囲を広くしておく。

資料

図書室の本すべて。
生徒が読んでいる本、自宅にある本すべて。